

目次

かんきょう
環境問題にとりくむ
ボランティアを紹介するよ。



はじめに 西尾雄志	4
-----------	---

かんきょう 環境ボランティアおすすめチャート	6
---------------------------	---

第 1 章 生物多様性をまもる

外来生物防除ボランティア

せい たい こう ぼう 生態工房	10
---------------------	----

外来生物を防除し、日本本来の生物多様性をまもる

希少生物保全ボランティア

ふく い けん りょう せい は ちゅう ぐ い げん きゅう かい 福井県両生爬虫類研究会	14
---	----

かんきょう
環境を整えて、希少なアベサンショウウオをまもる

海洋環境保全ボランティア

う み べ かん てい だん たてやま・海辺の鑑定団	18
-------------------------------	----

おき の し ま さい せい じゅん かん
沖ノ島のアマモ場や森を再生し、海と山を循環する自然をとりもどす

第 2 章 生活公害をふせぐ

食品ロス対策ボランティア

に ほん しよく ひん 日本もったいない食品センター	24
-------------------------------	----

あまつた食品の販売と寄付を行い、食品ロスをなくす

リサイクル活動ボランティア

ちゅう ぶ うん どう し みん かい 中部リサイクル運動市民の会	28
--------------------------------------	----

リユース&リサイクルによって、市民の手で循環型社会をつくる

第 3 章 環境教育を進める

かんきょう せい さく てい げん 環境政策提言ボランティア

き こう 気候ネットワーク	34
------------------	----

だつたん そ じつげん せい さく てい げん
脱炭素社会実現のために、市民の力を政策提言に生かす

里山体験教育ボランティア

さと や ま く ら ぶ 里山倶楽部	38
-----------------------	----

里山的な生きかたやくらしかたを提案して、日本の自然を復活させる

かい せつ かんきょう 解説 環境問題とボランティア	42
-------------------------------	----

さく いん	47
-------	----

ボランティアと ESGs

2015年9月25日の国連サミットで、地球環境を保全しながら発展をつづけるための目標「持続可能な開発目標 (SDGs)」が採択されました。SDGs は、2016 年から 2030 年の 15 年間で国連加盟国が達成すべき 17 の目標 (ゴール) と 169 のターゲット (ゴールにいたるための具体的な課題) で構成されています。17 の目標は、国だけでなく企業や市民が参加し、社会全体で達成をめざすものとされています。本書では、ボランティアの活動を SDGs の観点からとらえ、SDGs のどの目標にかかわるかを右のアイコンでしめています。



団体名の表示について

この本で活動を取りあげている団体には、NPO 法人および認定 NPO 法人がふくまれます。NPO 法人は、NPO 法人 (特定非営利活動法人) 制度にもとづき、団体の名前で契約や取引ができる法人格を得た団体です。認定 NPO 法人は、NPO 法人のなかでも、その団体に寄付した人が税の優遇を受けられる団体です。

NPO 法人は特定非営利活動法人ともよばれますが、この本では NPO 法人と記します。また、各団体の種類は「団体データ」内の「団体名称」にします。

外来生物を防除し、 日本本来の生物多様性をまもる

せいたいこうぼう
生態工房

人間の活動によって、本来すんでいない地域に移動させられた生きものを外来生物といいます。外来生物がふえると地域に昔からいた在来種と、えさやすむ場所を確保するための競争が起き、生態系はこわされ、本来の生物多様性が失われていきます。公園の池や城の堀などでも、外来生物は大きな問題となっています。外来生物を駆除することで、本来の生物多様性をとりもどす活動が行われています。

外来生物って
人間がもちこんだ
ものなんだね。



自然をとりもどした公園をめざす

「生態工房」は、1998年、5人の大学院生たちによって設立された団体です。当時5人の学生たちは、東京都練馬区の都立光が丘公園にある野鳥保護区のボランティアをしていました。そこで自然が保護されているはずの野鳥保護区でさえ外来生物がたくさんいることに問題を感じ、なんとか在来種がいたもとの自然環境にもどすことができないかと思ったのが設立のきっかけです。

最初はNPO法人ではなく、仲間どうしが集まる任意団体としてのスタートでした。スタート当初は、外来生物の駆除方法などもわからなかったのですが、本から情報を得たり、学会や研究会に参加したりして、問題になっている外来生物、たとえばブラックバスやアカミミガメ、セイタカアワダチソウなどの生態を学び、外来生物の駆除活動を行いました。

活動をはじめて3年で野鳥保護区内の池にいたブラックバスを完全に駆除するなど、光

が丘公園で多くの成果を上げていった結果、生態工房の活動が広く知られるようになりました。そして、東京都の都立公園を管理する東京都公園協会からの依頼で、外来生物の問題に頭をなやませていたほかの公園でも外来生物の駆除を行うようになり、活動の場が広がっていきました。

生態工房は、2010年に認定NPO法人となつて、いまにつづいています。



外来生物捕獲用のわなを修理するのも生態工房のメンバーの仕事です。

駆除するだけでなく 多くの人に問題点を伝えることが大事

生態工房は、東京都立の公園などから業務をうけおうかたちで、外来生物の防除活動を行っています。その活動には大きく分けて二つあります。

一つは、外来生物であるアカミミガメやザリガニの駆除です。駆除は、わなを使って生けどるという方法を用います。わなは市販のものを使うこともありますが、その地域に合ったわなでないと、うまくつかまえることができない場合もあるので、おもに生態工房で手づくりしたものを使っています。

アカミミガメの駆除は、生態工房の設立当初からずっと行っていた活動です。当時からアカミミガメの駆除には大きな問題がありました。それは、人びとのカメに対する認識です。日本では、カメはペットというイメージが強いので、外来生物だからといって、駆除することにはどうしても心理的な抵抗が強く、苦情の声もあったといいます。とはいえ、アカミミガメは大食漢です。池で数多く繁殖してしまうと、水草を食べつくすばかりか、ときにはカルガモのヒナまで食べてカルガモの一家を全滅させてしまうこともあります。

生態工房では、ただアカミミガメを駆除す



アカミミガメ

本来アメリカの中南部の淡水に生息するカメ。日本ではミドリガメとして、子どものカメがペットショップなどで売られている。最大で30センチ近くまで成長するため、飼いきれなくなつて、池や堀などにすてられ、繁殖して問題になっている。



事務局長の佐藤方博さんに 聞きました



外来生物など、自然環境のなかで問題になっていることはいくつもあります。こうした問題に関心を持ちながらも、どうすればいいかわからず、残念な気持ちをかかえて眺めているしかないという人も多いと思います。ですが、アカミミガメの駆除がそうだったように、解決できる方法はきっとあります。自分に何ができるかを考えたり、情報を集めたりしてみてください。きっとどんな活動をすればいいかの答えは見つかるはずです。



団体データ

団体名称	認定NPO法人 生態工房
設立	1998年(2002年にNPO法人化)
所在地	東京都武蔵野市吉祥寺本町 4-9-22 フラットK101
電話	0422-27-5634
ファクス	0422-27-5634
メール	eco@eco-works.gr.jp
ホームページ	https://eco-works.gr.jp/



協力ボランティアの声

井の頭かいぼり隊 中山貢子さん



子どものころ親しんだ井の頭恩賜公園。おとなになって足が遠のくと、たいへんな現状を知る機会もありませんでした。そんなとき、かいぼりが行われるニュースを聞き、「自分もやってみたい!」という好奇心から参加しました。かいぼりの結果、明らかに環境が変化し、生きものがふえた池に感動しています。仲間たちや興味をもって声をかけてくれる人たちと一緒に「人と自然のかかわり」について考え、活動することで、この感動が広まり、伝わることを願っています。



かいぼりでは、泥だらけになりながら、みんな楽しく活動しています。



広い池をかいぼりするために、たくさんのボランティアが参加します。

るだけでなく、アカミミガメの生態や駆除の必要性など、公園をおとずれた人たちに解説する環境教育も行っています。こうした努力により、いまでは駆除への理解が進んでいます。

もう一つは、かいぼりによる自然環境の改善です。かいぼりとは、池の水をいったんぬいて池の底を空気にふれさせることで、よどんだ池の底の自然環境を回復させることです。水をぬくので、同時にブラックバスなどの外来生物をいっせいに駆除することもできます。ただし、1回やればよいというものではなく、池底を回復させるためには、数年おきに定期的に行う必要があります。

生態工房は数多くの公園でかいぼりを行っています。いちばん有名なのは、2014年から行われている東京都武蔵野市と三鷹市にまたがる都立井の頭恩賜公園の井の頭池での活動です。井の頭恩賜公園が2017年に開園100周年をむかえることをきっかけに、きたなくなった井の頭池をよみがえらせるプロジェクトです。すでにかいぼりで実績のあった生態工房が依頼を受け、生態工房の指導のもと、多くの市民がボランティアとして参加します。

地域や行政といっしょに 全国を自然をよみがえらせる

生態工房が活動をはじめて20年以上がたちました。地域のボランティアや東京都、区などの行政といっしょに行ってきたとりくみの成果が出ている公園が、いくつもあります。しかし、生態工房としては、まだ満足できる状態ではないといえます。できることなら、目につくかぎりの自然をとりもどしたいという願いをもっているからです。

また、外来生物駆除もかいぼりも、1回やればそれだけで自然がもとにもどるというものではありません。一つ一つの場所をていねいに見つづけながら、本来の自然環境に近づける活動を、地域の人といっしょに継続して行っていくことが大切です。

生態工房だけでは、その願いは達成できません。生態工房での成果をどんどん発信し、ほかの地域でもとりくみが広がってほしいと願っています。その先に、日本全国の自然がよみがえっていく、そんな夢をもって、生態工房は活動をつづけています。



環境教育では写真やイラストなどを使って、わかりやすく説明します。



協力ボランティアの声

あけおみずべもり 上尾水辺守 根本尚司さん



おとなになると周囲の目も気になり、魚とりのような子どものときに楽しんだ遊びがなかなかできません。そんなときに目にした、かいぼりのボランティア。「どうどうと魚とりができる!」と思い応募しました。ボランティアには、考えかたや趣味嗜好の異なる人がたくさん集まっています。それだけでも楽しい! さらに、活動をしているといろいろな学びがあり、おもしろ味があります。好きだからこそ楽しい。好きこそもののじょうずなれ、です。

自然環境の問題を解決するためには、活動を継続することが重要なんだよ。

